

熊本高等専門学校の年度計画（平成22年度）

本校の中期計画に基づき、平成22年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 教育に関する事項

（1）入学者の確保

- ・オープンキャンパス、中学校訪問等を通じて積極的なPR活動を行う。
- ・FMラジオ等のメディアを利用した広報活動を展開し、継続して新高専のブランディングを図る。
- ・体験入学（オープンキャンパス）、学校説明会等を充実するとともに、広報誌（学生募集パンフレット、学校概要など）やホームページ等による広報を通して、本校の特徴や学科編成等を受験生や保護者に周知する。
- ・本校における教育内容や理系教育の面白さ・興味を啓蒙することを目的とした、中学校訪問や出前授業を積極的に行い、中学校との連携を深める。これらの校外広報活動を通して、本校の特徴や魅力をより深くアピールする機会を増やす。
- ・本科及び専攻科の募集要項・入学者選抜方法を見直し、改善を図るとともに、本校の教育目標になかった学生の資質を明示し、アドミッションポリシーを周知する。
- ・入学者の学力水準の維持に努めるとともに、平成23年4月の入学者志願倍率について、3倍程度を目指す。

（2）教育課程の編成等

- ・新しい教育課程の完成に向けて、新規科目の開講準備、移行期間中の教育体制の整備を図る。
- ・「熊本地区国立高専における新分野検討協議会」や「地域における高等専門学校の在り方に関する調査」等の結果を踏まえ、本校の今後の方向性について検討する。
- ・学習到達度試験やTOEICを活用して、基礎知識・技術の習得状況を確認するとともに、その向上を図る。
- ・卒業生を含めた学生による適切な授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。
- ・ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト等への参加を促し教育的指導を行うとともに、積極的に活動を支援する。
- ・学内美化運動、ボランティア活動を支援・推進する。

（3）優れた教員の確保

- ・優れた教員を確保に努めるとともに、多様な背景を持つ教員の割合を高める。

- ・長岡、豊橋技科大との連携を図りつつ、「高専・両技科大間教員交流制度」を利用した交流の促進を図る。

- ・専門科目（理系の一般科目を含む。以下同じ。）については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して、高度な実務能力を持つ者など、優れた教育力を有する者を採用する。この要件に合致する者を、専門科目担当の教員については全体として70%、理系以外の一般科目担当の教員については全体として80%を下回らないようにする。

- ・男女共同参画社会の実現及び女性研究者の活躍推進の観点から、女性教員の積極的な登用のための環境整備の検討を進める。

- ・ファカルティ・ディベロップメントなどの教員の能力向上を目的とした研修を実施する。

- ・機構本部等が主催する各種の教員研修に積極的に教員を派遣する。

- ・教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループへの全学的な表彰制度について検討する。

- ・国内外研究員として積極的に教員を派遣するとともに、国内外の大学等での研究・研修や国際学会への参加を促進する。

（４）教育の質の向上及び改善のためのシステム

- ・新設のPBL・総合教育センター及びICT活用学習支援センターの活動を通して、教材や教育方法の開発を推進する。

- ・JABEE認定プログラムの更新に向けた体制を構築し、認定のための対応を図るとともに、教育の質の向上に努める。

- ・サマースクール、国際交流協定に基づく海外との学生交流等を主催し、人的・技術的交流を推進する。

- ・PBL・総合教育センターを中心に特色ある教育方法の取組みを促進するため、優れた教育実践例をとりまとめるとともに、ICT活用学習支援センターを中心に学術情報のデータベース化を図る。

- ・自己点検評価を適切に行うとともに、評価結果及び改善の取組みについて、積極的に公開する。

- ・インターンシップや共同教育の推進など、教育に関する産学連携の推進のための具体的方策について、調査・研究する。

- ・企業の退職技術者など、知識・技術を持った意欲ある企業人材を活用した教育体制の構築に向けて、調査・研究を行う。

- ・教員の研修、教育課程の改善、高等専門学校卒業生の継続教育などに関する技術科学大学や理工系大学との連携活動に積極的に参加する。

- ・新設のPBL・総合教育センター及びICT活用学習支援センターの活動を通して、e

ラーニング教材の開発と利用環境の整備を行う。

(5) 学生支援・生活支援等

- ・メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の充実のための講習会を実施する。
- ・発達障害や学習支援を必要とする学生に対する学内支援を推進し、就職・進学支援について検討する。
- ・ICT活用学習支援センターにおける、各種学術情報の利用環境や自学自習環境等の整備を図る。
- ・寄宿舎の計画的な環境整備を図る。
- ・各種奨学金に関する情報をホームページ等で学生に周知し、活用を推進する。
- ・学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、企業情報、就職・進学情報などの提供体制や専門家による相談体制を充実させる。
- ・両キャンパス共通の就職・進路情報の周知について検討する。

(6) 教育環境の整備・活用

- ・施設マネジメントの充実を図るとともに、校内施設の老朽化に伴う事故防止のため、定期的に点検を行う。
- ・高度化・再編に伴う教育の充実に向けて、学年進行を考慮しながら施設・設備の整備を計画的に推進する。
- ・配布した「実験実習安全必携」の活用を図るとともに、安全衛生管理のための講習会を実施する。

II 研究に関する事項

- ・地域イノベーションセンター及び総務委員会の活動を通して、共同研究や受託研究を推進するとともに、産業界や大学などとの技術交流を行う。
- ・科学研究費補助金等の外部資金獲得に向けたガイダンスを開催し、好事例の共有と活用を図る。
- ・地域イノベーションセンターが核となり、本校の持つ知的資源を活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取り組みを促進するとともに、これらの成果を公表する。
- ・技術科学大学や九州地区の高専や大学と連携し、高専の研究成果を知的資産化するため産学連携コーディネータを中心に活動を推進する。

III 社会との連携、国際交流等に関する事項

- ・高度化・再編により設置された新設の3センターについて、施設や設備の充実を継続して計画的に推進する。

- ・教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて、企業や地域社会に分かりやすく伝えられるよう広報活動を推進する。
- ・小・中学校を対象とした出前授業を実施し、成果をまとめる。
- ・中学生の訪問型の体験実験、体験入学（オープンキャンパス）を実施する。
- ・地域と連携した理科教育の体験活動を推進する。
- ・満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として、公開講座等を充実する。
- ・卒業生の動向を把握するとともに、卒業生のネットワーク作りとその活用を推進する。
- ・国際交流協定を締結した東南アジア地区のポリテクを中心として、外国語コミュニケーション能力の向上を目指した留学制度をさらに推進する。
- ・国際工学教育研究集会 I S A T E 等を通じて、教員の国際交流を推進する。
- ・留学生受入れ拡大に向けた環境整備、及び受入れプログラムの企画等を検討する。
- ・機構本部や地域の支援団体と協力しながら、我が国の歴史・文化・社会に触れる機会を提供する。

IV 管理運営に関する事項

- ・機構の一員としての迅速、かつ、責任ある意思決定を実現する。
- ・継続して本校の効率的な管理運営の在り方について、検討する。
- ・事務の効率化・合理化を図るために、高専機構が準備した共通システムの効率的な運用を引き続き行っていく。
- ・事務職員や技術職員の資質の向上を図るため、研修を計画し積極的に参加させる。
- ・事務職員及び技術職員については、大学、高等専門学校、及びキャンパス間での人事交流を積極的に行い、活性化を図る。

V 財務内容の改善に関する事項

- ・予算の効率的な執行を進めるとともに、自己収入増加の方策について検討する。

VI その他

- ・高度化・再編に伴い、新高専が時代や地域の要請に即応した新しい高専として機能するよう、改革・整備を進める。